

7. ホームページ掲載用資料



普代村トンネル長寿命化修繕計画

■【目的】

これまでに多用されていた『事後保全型維持管理』を改め、計画的な維持管理のもと、『予防管理型維持管理』によって、普代村管理トンネルの安全性・信頼性を確保するとともに、限られた予算の中で、LCCの縮減、予算の平準化、等を実践することで、効率的な財政投資の具現化を図ることを目的とした計画です。

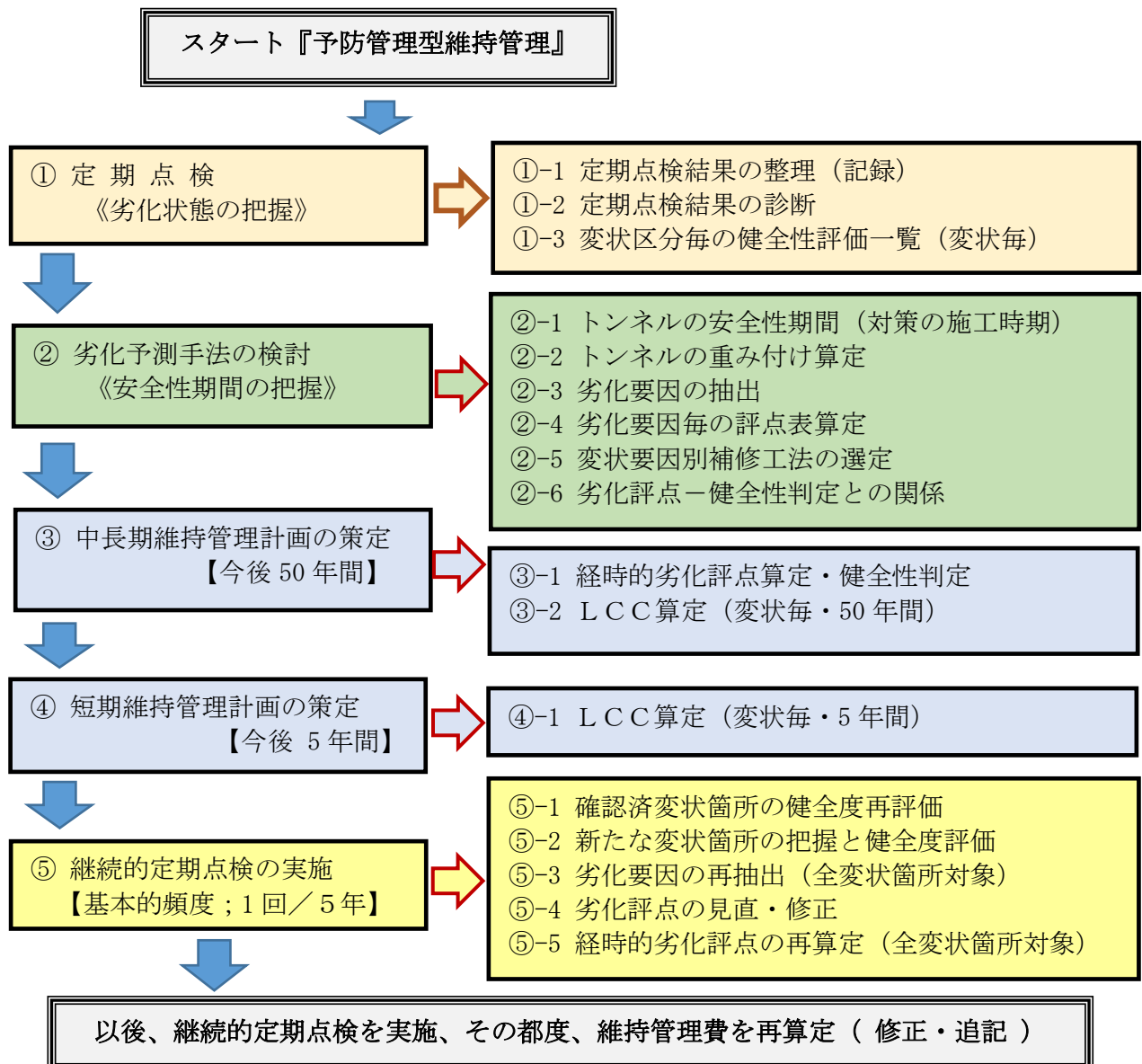
☆『事後保全型維持管理』

事後保全型維持管理とは、機能不全に陥った時点で更新、または交換を行う、従来型管理方法で、供用規制を伴った大規模補修や全区間の改修工事を一時的に集中する方法です。

☆『予防管理型維持管理』

予防管理型維持管理とは、トンネル本体工を原則として永久構造物と位置付けし、定期点検で把握した変状毎に、健全度を評価、施工実績から対策余命期間を設定、LCCを算定、継続的な定期的点検で健全度を再評価、等のサイクルにより、劣化状態を顕在化する前に、計画的な補修・補強を行う方法です。

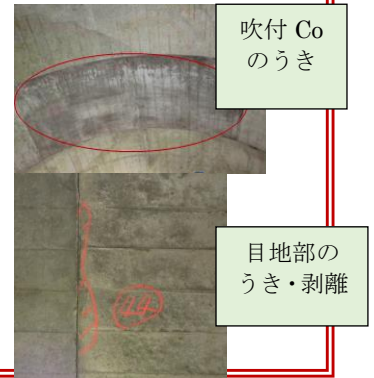
■【予防管理型維持管理の実施フロー】



■ 【 定期点検（初回）結果の総括 】

トンネル名称	延長 (m)	判定区分別変状数				
		I	II	III	IV	計
松磯第一トンネル	57	44	10	4	0	58
松磯第二トンネル	152	43	4	3	0	50
力持浜トンネル	115	52	8	6	0	66

判定区分	
I	健全
II	予防保全段階
III	対策実施段階
IV	緊急措置段階



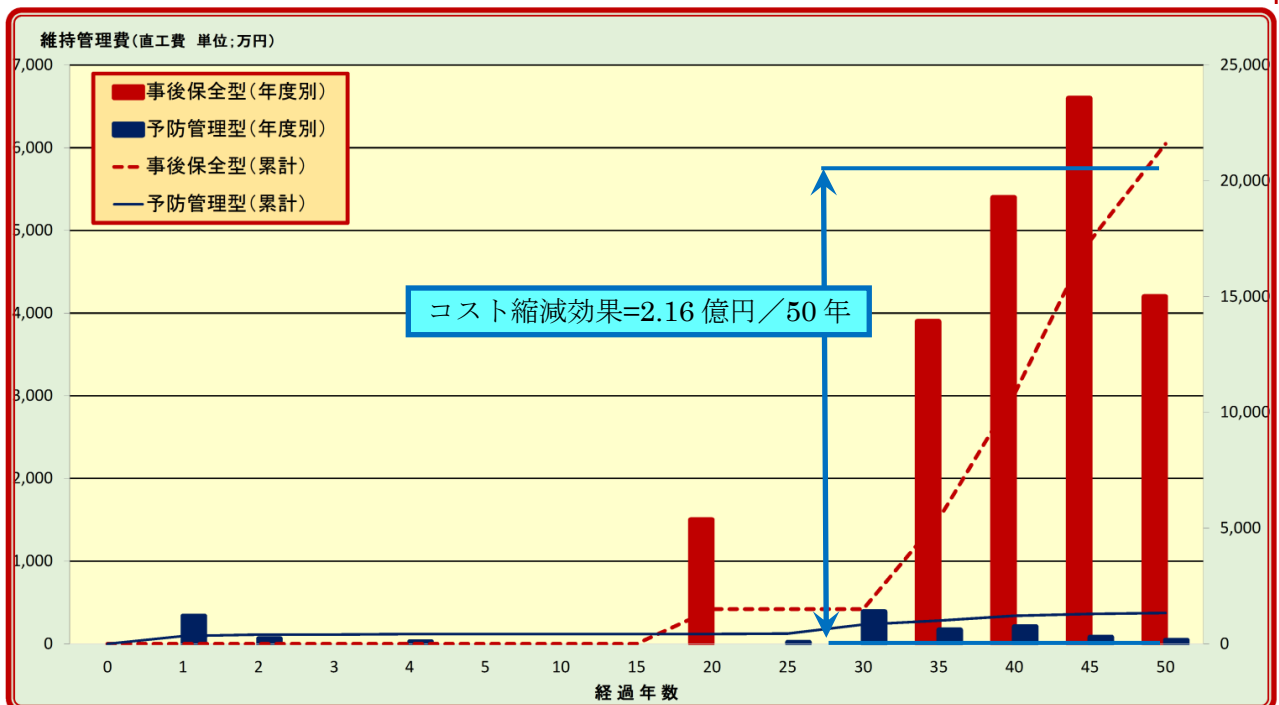
■ 【 予防保全型維持管理による効果 】

☆ 安全・安心の確保

突発的なコンクリートの剥落等による利用者被害、長期の交通規制を伴う大きな社会的損失等を回避・抑制できることで、市民に対し、安全・安心を提供することができます。

☆ 長期的コストの縮減

劣化損傷箇所を適時に、最適な補修工法で対応することで、トンネルの健全度を高い水準に保つことが可能となり、維持管理費を大きく低減することが可能となります。



★★ LCC効果(50年間累計) ★★

予防管理型維持管理(0.13 億円) VS 事後保全型維持管理(2.16 億円)

⇒ 94.0%のLCCの低減



普代村 建設水産課